

山路愛山参考文献目録

— 明治二十三年～昭和十八年 —

鈴木 一 正

要 旨 本目録は、明治・大正期に活躍した歴史家・評論家・ジャーナリストで、北村透谷との論争（「人生相渉論争」）相手としても知られる山路愛山（一八六四～一九一七）の参考文献目録の「戦前編」である。収録期間は、明治二十三年から昭和十八年までの五十四年分で、前号掲載の「山路愛山参考文献目録―昭和二十一年～平成十四年―」の「前に」続くものである。

これまで山路愛山の参考文献目録はいくつか作成されているが（付記参照）、網羅的なものは極めて少なかった。本目録では、先行の参考文献目録に未収載の文献を加えるとともに、現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略した巻号や副題を加え、単行本所収の情報を付加した。なお、巻末には前号に掲載した目録の補遺を付した。

凡 例

- 一、本目録は、明治・大正期に活躍した歴史家・評論家・ジャーナリストで、北村透谷との論争（「人生相渉論争」）相手としても知られる山路愛山の参考文献目録の「戦前編」である。
- 一、収録期間は、副題が示すとおり、明治二十三年から昭和十八年までの五十四年分とした。
- 一、排列は、発行年月日順に並べた。発行日が同じ場合は、誌名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、掲載順とした。
- 一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題は、なるべく採用するようにした。なお、副題の表記は、記載のとおりとした。
- 一、雑誌等の巻号は、なるべく採用するよう努めた。
- 一、単行本は「**『**」、雑誌等は「**〔**」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項は「**（**」**）**を用いた。また無署名の場合は、**——**で表示した。また、無署名・筆名等で著者名が判明した場合は、「**〔**」で補記した。その他、必要に応じて注記した。
- 一、雑誌・新聞の新刊紹介・書評欄で取り上げられた単行本の場合は、書名に「**』**」を補記した。
- 一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。
- 一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。なお、所収書名は、**↓**「**』**」で示した。
- 一、巻末に、前号掲載の「山路愛山参考文献目録―昭和二十一年―平成十四年―」の補遺を付した。

【明治期】

^{'90} 頼山陽を論ず（批評）〔「女学雑誌」第236号、

明23・10・25）

叢野野史 愛山生の評を読む（寄送批評）〔「女学雑誌」

第238号、明23・11・8）

^{'92} 大希望、大剛膽（評論一斑）〔「国民新聞」

明25・3・27）「我国老ひたる乎」〔「女学雑誌」明

25・3・19）評

小反動（時文評論）〔「早稲田文学」第12号、

明25・3・30）

一一生「中村修二」 愛山生の自家撞着（秃筆録（承

前））〔「国民新聞」明25・4・3）「我国老ひたる乎」

〔「女学雑誌」評

一一生 前途多望Ⅱ文学界／三子の文（秃筆録（承

前））〔「国民新聞」明25・4・17）

近刊「国民之友」〈文界彙報〉〔「早稲田文学」

第24号、明25・9・30）「平民的短歌の發達」評

「国民之友」〈文界彙報〉〔「早稲田文学」第

25号、明25・10・15）「平民的短歌の發達（二）」評

栩々生「田岡嶺雲」 平民的短歌の發達第二を読む

（明窓浄几）〔「亜細亜」第61号、明25・10・17）↓

「田岡嶺雲全集」第1卷、法政大学出版社局、昭48・2

栩々生 愛山生が反駁に答ふ〔「国民新聞」明25・

10・22）↓「田岡嶺雲全集」第1卷、法政大学出版社

局、昭48・2

栩々生 愛山生が史論を読む（第二）（明窓浄几）

〔「亜細亜」第62号、明25・10・24）↓「田岡嶺雲全

集」第1卷、法政大学出版社局、昭48・2

鼎軒 山路生に対して〔「史海」第17卷、明25・

10・27）

史伝、人物評（文界彙報）〔「早稲田文学」第

26号、明25・10・30）「平民的短歌の發達」「近世物

質的の進歩」評

栩々生 腹ふくれざらむ為めと思ふ事（明窓浄几）

〔「亜細亜」第63号、明25・10・31）↓「田岡嶺雲全

集」第1卷、法政大学出版社局、昭48・2

93 一一生 頼襄論を読む（『国民新聞』明26・1・21）

謫天仙仙「野口寧齋」 山路弥吉論頼襄（続五君咏）

（『城南評論』第11号、明26・1・21）

初陣子 頼襄を論ず（『国民之友』新年附録評判）（同右）

鄭澳生 現時の俳諧論（『文界現象』）（『早稲田文学』

第33号、明26・2・10）「平民的短歌の發達」（『国

民之友』評

透谷庵 人生に相渉るとは何の謂ぞ（『文学界』第

2号、明26・2・28）↓『透谷全集』第2卷、岩波

書店、昭25・10

田口鼎軒 山路愛山君に対して（『東京經濟雜誌』第

666号、明26・3・18）↓大久保利謙編『田口鼎軒集』

（『明治文学全集』14）筑摩書房、昭52・8

*蘇峯生 熱海たより（番外）（『国民新聞』明26・3

・19、26）↓徳富蘇峰『文学断片』（『国民叢書第5冊』）

民友社、明27・3

鬼門関尹・くちわる男 蔽日生と愛山生（『新刊文書』

（『城南評論』第12号、明26・4・5）

鄭澳生 明治文学（『文界現象』）（『早稲田文学』第37

号、明26・4・10）「明治文学史」（『国民新聞』評

すきや「北村透谷」 今日の基督教文学（『聖書之友

雜誌』第64号、明26・4・15）↓『透谷全集』第2

卷、岩波書店、昭25・10

——— 「三籟」と「護教」（『片々燦々』（『評論』第

2号、明26・4・22）

鄭澳生 評判もしほ草（『文界現象』）（『早稲田文学』

第40号、明26・5・20）「純文学論」（『国民新聞』

明26・5・3）評を含む

透谷 人生の意義（『文学界』第5号、明26・5・

31）↓『透谷全集』第2卷、岩波書店、昭25・10

透谷 賤事業弁（同右）↓『透谷全集』第2卷、

岩波書店、昭25・10

巖本善治 山路愛山氏に答ふ（『評論』第5号、明

26・6・3）

植村正久 高踏とは何ぞや（同右）

*思軒居士 山陽論に就て（『国民之友』第193、194、196

203、205、207、209、215、224、226、228、229、231、232号、
明26・6・13、27・7・13、26回連載。発行日は毎月3、13、23日。↓「頼山陽及其時代」民友社、明31・5

所謂硬文学、所謂軟文学〈文界〉〔思想〕

第2号、明26・7・2

的面生〔人見一太郎〕 愛山生に答ふ〔国民新聞〕

明26・7・30 ↓「民友社文学集（一）」〈民友社思想文学叢書 第5巻〉三二書房、昭59・5

「荻生徂徠」〈時文〉〔文学界〕第9号、明

26・9・30

⁹⁴ — 「国民」〈文界現象〉〔早稲田文学〕第42号、

明27・6・25）「明治文学史」〔国民〕日曜附録

評

荒川漁長 民友派及早稲田派〔文学界〕第18号、明

27・6・30

* 思軒居士 山路君に答ふ〔国民新聞〕明27・7・28、

29) ↓「頼山陽及其時代」〈拾貳文豪第11巻〉民友

社、明31・5・10

思軒居士 二たび山路君に答ふ〔国民新聞〕明27・8

・3) ↓「頼山陽及其時代」民友社、明31・5・10

思軒居士 三たび山路君に答ふ〔国民新聞〕明27・8

・7) ↓「頼山陽及其時代」民友社、明31・5・10

— 山陽論争〈文界現象〉〔早稲田文学〕第69

号、明27・8・10

⁹⁵ — 批評〈文学〉〔国民新聞〕明28・1・5

青年文記者「田岡嶺雲」 愛山氏の「命耶非耶」〈時

文〉〔青年文〕第1巻第3号、明28・4・10) ↓

「田岡嶺雲全集」第1巻、法政大学出版局、昭48・2

青年文記者「田岡嶺雲」 秋雲一掬〈時文〉〔青年文〕

第2巻第4号、明28・11・10)

— 平安朝風俗〈彙報〉〔早稲田文学〕第10号、

明28・11・25)「伊勢物語に顯れたる日本」〔国民

之友〕評

青年文記者「田岡嶺雲」 愛山生に与ふ〈時文〉〔青

年文〕第2巻第5号、明28・12・10)

- 文壇消息〈彙報〉〔早稲田文学〕第101号、明
28・12・10)「近松の戯曲に現はれたる元禄時代」
〔国民之友〕評
- 96
—— 紛々二〔太陽〕第2巻第4号、明29・2
・20)
- 山路愛山生〈文学〉〔太陽〕第2巻第6号、
明29・3・20)
- 夜舟生 任出記〔文庫〕第2巻第4号、明29・
3・25) 枯葉山人「統そしり草」〔国民新聞〕評
を含む
- 頭取 雲中語〔めさまし草〕まきの九〔第9号〕、
明29・9・30)「高麗陣博多聞書」〔第八 国民小説〕
評
- 97
—— 文壇消息〈彙報〉〔早稲田文学〕第30号、明
30・3・15)
- 雅号由来記〔新小説〕第2年第9巻、明
30・8・5)「山路愛山君」を含む
- 風塵録〈時評〉〔太陽〕第3巻第19号、明
- 雑俎〈時評〉〔太陽〕第3巻第22号、明30
30・9・20)
- 11・5)「徳富蘇峰論」〔世界之日本〕評
- 98
—— 再び愛山生に問はむ〈時事論評 文芸界〉
〔太陽〕第4巻第6号、明31・3・20)
- 「頼山陽及其時代」〈彙報〉〔早稲田文学〕
第7年第12号、明31・9・3)
- 基督教徒の新聞雑誌及び其の記者(下ノ一)
〔福音新報〕第167号、明31・9・9)
- 戸川残花 開書〈投書〉〔世界之日本〕第2巻第4号、
明31・10・1)
- 99 水品平 愛山、山路弥吉君を紹介す〔信濃毎日新
聞〕明32・4・2)
- 現代の文章〈時事論評 文芸界〉〔太陽〕第
5巻第7号、明32・4・5)
- 徳富蘇峰 山路愛山に与ふ〔世間と人間〕〈国民叢書
第15冊〕民友社、明32・9・18) ↓「蘇峰文選」民
友社、大4・12

山路愛山と雑誌刊行(怪庵編)『文士政客風

聞録』大学館、明32・12・16) タイトルは目次によ

る

宮崎八百吉 思惟の基礎としたる常識(同右)

『懺悔』(『新刊』(『日本人』第182号、明36

・3・5)

⁰⁰岡野知十 高山彦九郎の自殺(山路愛山君の近著を讀

む)(『寄書』(『東京經濟雜誌』第1037号、明

33・7・7)

堀出山人(『結城礼一郎』 民友社の金蘭簿(『小天地』

第1巻第2号、明33・11・15) ↓蘇峰先生古稀祝賀

記念刊行会編『蘇峰先生古稀祝賀 知友新稿』民友

社、昭6・11

⁰¹高須梅溪 第二少壯論客(山路愛山)(『新声』第5編

第5号、明34・5・15)

松崎天民 民友社の小使(『小天地』第1巻第9号、

明34・7・15)

T日生 『伊達騒動記』(『新刊』(『日本人』第147号、

明34・9・20)

⁰³蘇峰生 独立評論を餞す(『独立評論』第1号、明

36・1・1)

死外書窟主人 雪冤(独立評論の漢寄代議士評に就て)

(『寄書』(『独立評論』第7号、明36・7・3)

⁰⁴ 大絃小絃(『文庫』第25巻第6号、明37・

4・3) 『日露戦争実記』評を含む

公孫樹 大絃小絃(『文庫』第26巻第2号、明37・

5・15) 『戦時に於ける青年訓』評を含む

『日露戦争実記』第九号(『新刊紹介』(同右)

介山(『中里介山』 如是愚観(『新潮』第1巻第6号、

明37・10・10)

⁰⁵桜花山人 奈良市政論(『反響』(『独立評論』38年第2

号、明38・3・3)

雨山生 法を信長に取る乎(同右)

烏有生 孔子論及び新聞評論に就て(『雑記』(『独立

評論』第2巻第3号、明38・4・3)

『孔子論』を讀む(『護教』第716号、明38

・ 4 ・ 15)

—— 国家社会党生る〔新人〕第6巻第9号、明
38・9・1)

淡山 山路愛山〈講壇品評〉〔新潮〕第3巻第3
号、明38・9・15)

暮村隠士 山路弥吉と竹越与三郎〈現代人物評論 其
七〉〔新公論〕第22年第10号、明38・10・1)

堺 利彦 『国家社会主義梗概』を読む〔光〕第1
巻第3号、明38・12・20) ↓ 『堺利彦全集』第3巻、

法律文化社、昭45・9

土屋生 独立評論を読み同志に一言す(同右)
—— 山路愛山氏の雑誌と著書〈彙報〉〔同方会
誌〕第29号、明38・12・31)

’06堺 利彦 山路愛山兄に与ふ〔光〕第1巻第7号、
明39・2・20) ↓ 『堺利彦全集』第3巻、法律文化
社、昭45・9

渡辺円蔵 国家社会主義梗概と堺氏の批評とを読む
〔寄書〕〔独立評論〕39年第3号、明39・3・3)

鳥谷部春汀 当今の時文家(月旦)〔文章世界〕第1

巻第1号、明39・3・15) ↓ 『鳥谷部春汀全集』第
3巻、博文館、明42・8

樋口龍峡 戦後の文壇〔碧潮〕高山房、明39・3・23)
堺 利彦 階級戦争論に就て(山路愛山君と石川三四
郎君とに質す)〔光〕第1巻第14号、明39・6・5)

↓ 『堺利彦全集』第3巻、法律文化社、昭45・9

高浜長江 社会主義雜感(寄書)〔独立評論〕39年第
7号、明39・7・3)

—— 『社会主義管見』山路愛山氏著(新刊紹介)
〔中学世界〕第9巻第9号、明39・7・10)

春風道人「塚越停春」昔の民友社〔文章世界〕第
1巻第5号、明39・7・15)

—— 山路愛山著『社会主義管見』(新刊)〔丁酉
倫理会倫理講演集〕第46輯、明39・7・15)

—— 『社会主義管見』山路愛山著(新刊紹介)
〔新潮〕第5巻第1号、明39・7・20)

—— 『基督教評論』山路愛山著(新出版界)〔新

「公論」第21年第8号、明39・8・1)

高木 直 山路愛山に与ふ〔文叢〕〔文章世界〕第1

巻第6号、明39・8・15)

—— 【社会主義管見】山路愛山著〔新著梗概〕

—— 【読売新聞】明39・8・29)

—— 同様録〔時文〕〔新小説〕第11年第9巻、

明39・9・1) 【社会主義管見】評を含む

笑変窟同人 秋天寥廓記〔新潮〕第5巻第4号、明

39・10・15)

忘憂子 十二月の雑誌〔文芸時報〕〔読売新聞〕明

39・12・9) 【支那思想史】〔独立評論〕評を含む

07新潮社同人 山路愛山〔文士月旦〕〔新潮〕第6巻第

1号、明40・1・15)

鉞南頑史 山路愛山君〔雅号批判朝野之人物〕昭文

堂、明40・2・7)

宮崎湖処子 基督教界の文章家〔月旦〕〔文章世界〕

第2巻第3号、明40・3・15) 【山路愛山氏】を含む

為藤五郎 本誌投書家の文章〔文叢〕(同右)

—— 山路愛山〔現代文学者小伝〕〔文章世界〕

第2巻第4号、明40・4・1、臨時増刊〔詩と文〕(

—— 山路愛山氏〔名家の書齋〕〔文章世界〕第

2巻第6号、明40・5・15) 書齋と家庭の写真3葉

—— 山路愛山氏〔東京府荏原郡渋谷村〕〔文士

の近郊生活〕〔文章世界〕第2巻第8号、明40・

7・15)

—— 【支那思想論^{支那}日韓文明論^{支那}】〔紹介〕〔女学世

界〕第7巻第11号、明40・8・5) 【支那思想史

日漢文明異同論】の紹介

—— 【支那思想史 日漢文明異同論】山路愛山

著〔新刊紹介〕〔文章世界〕第2巻第9号、明40・

8・15)

—— 【支那思想史 日漢文明異同論】山路愛山

著〔新刊紹介〕〔趣味〕第2巻第9号、明40・9・

1)

—— 篝火生 【支那思想史 日漢文明異同論】山路愛山

著〔新刊紹介〕〔ホトトギス〕第11巻第2号、明

40・11・1)

樹下石上人 人物評家の変遷〔「文章世界」第2巻第13号、明40・11・15〕

〇8 — 『山路愛山小品文集』〔新刊紹介〕〔「新人」

第9巻第1号、明41・1・1〕

石黒鉄牛 露伴と漱石〔六〕〔現代文人 文章評論（七）〕

〔「読売新聞」明41・1・21〕

石黒鉄牛 国木田独歩〔二〕〔現代文人 文章評論（十

四）〕〔「読売新聞」明41・2・13〕

徳田秋江 文壇無駄話〔「読売新聞」明41・3・1〕

—— 山路弥吉氏の基督に対する信仰〔「福音新

報」第663号、明41・3・12〕

長目氏 編輯局の徳富蘇峯峰氏〔「中学世界」第11

巻第5号、明41・4・10〕「氏と山路愛山氏」を含む

—— 山路愛山氏の「基督に対する余が信仰」〔「東

都講壇」〔「新人」第9巻第5号、明41・5・1〕

*大町桂月 山路愛山に与ふ〔時代文芸〕〔「東京二六新

聞」第1473、1475号、明41・5・28、30〕

—— 『現代金権史』山路愛山著〔新著梗概〕〔「読

売新聞」明41・5・31〕

T S 生 将来の基督教に就而〔寄書〕〔「独立評論」

41年第4号、明41・6・3〕

一記者 山路愛山氏を訪ふ〔「文章世界」第3巻第

8号、明41・6・15〕

関天園 山路愛山の玉手箱〔同人雑誌〕〔「新公論」

第23年第7号、明41・7・1〕

—— 道聴塗説〔「文章世界」第3巻第11号、明

41・8・15〕

大町桂月 山路愛山を戒む〔筆のしづく第三〕文禄

堂書店、明41・9・10〕

—— 山路愛山氏の「仁」〔「東都講壇」〔「新人」第

9巻第10号、明41・10・1〕

徳田秋江 文話十六片〔「文章世界」第3巻第14号、

明41・11・1、臨時増刊〔「文章百話」〕

—— 山路愛山君〔文壇諸名家雅号の由来〕〔「中

学世界」第11巻第15号、明41・11・20〕

—— 【豊太閣】山路愛山著〈新刊寸評〉（読売新聞）明41・11・21）

鼎浦生 一批評家に答ふ（「新人」第9巻第12号、明41・12・1）

—— 【豊太閣】山路愛山著〈新刊紹介〉（文章世界）第3巻第16号、明41・12・15）

⁰⁹—— 独立評論社（日本現代の新聞雑誌）（日本及日本人）第50号、明42・1・1）

篝火生 【豊太閣】山路愛山著〈新刊紹介〉（ホトトギス）第12巻第5号、明42・2・1）

—— 【足利尊氏】山路愛山著〈新刊紹介〉（文章世界）第4巻第3号、明42・2・15）

—— 同様録（時文）（「新小説」第14年第3巻、明42・3・1）【足利尊氏】評を含む

T・Tom 哲学の衰微に付て（「独立評論」42年第3号、明42・3・3）前号（思潮）欄附記の評

平田禿木 【文学界】と当時文界（文壇回顧録）（趣味）第4巻第4号、明42・4・1）

旋風子 文芸間語（同右）「愛山の負客み」を含む

—— 【後編 豊太閣】山路愛山著〈新刊寸評〉（読売新聞）明42・5・12）

—— 山路愛山氏の永生論（卓上叢話）（福音新報）第732号、明42・7・8）「ひとり言」（国民新聞）明42・6・27）評

太田水穂 近世批評史論 続（趣味）第4巻第8号、明42・8・1）

—— 【源頼朝】山路愛山著〈新刊雜書〉（東京朝日新聞）明42・8・8）

—— 【源頼朝】山路愛山著〈新刊寸評〉（読売新聞）明42・8・10）

—— 【源頼朝】山路愛山著〈新刊紹介〉（文章世界）第4巻第11号、明42・8・15）

石橋湛山 九月の教学界（「早稲田文学」〔第2次〕第47号、明42・10・1）「日本現代の史学及び史家」

（「太陽」）評を含む。↓「石橋湛山全集」第1巻、東洋経済新報社、昭46・1

白雲子 偉人と伝記（「読売新聞」明42・11・14）

『時代代表英雄伝』評を含む

10 山路愛山〈現代文芸百家小伝〉（「新潮」第

12巻第1号、明43・1・1）

守田有秋 山路愛山論（「自然と人」博盛堂、明43・

1・13）

—— 山路愛山〈現代文士録〉（「文章世界」第5

巻第2号、明43・2・1、梅花号）

須磨の浦人 山路愛山〈雄弁家月旦〉（「雄弁」第1巻

第2号、明43・3・1）

絲蔭の人 文壇時言〈文芸百方面〉（「読売新聞」明

43・6・12）（「人生観上の自然主義」〔「新潮」〕評

繁生 独立評論〔雑誌月評〕（「文章世界」第5巻

第9号、明43・7・15）

—— 『漢学大意』山路愛山著〈新刊雑誌と書籍〉

（「読売新聞」明43・7・31）

荒川青花 藤村氏の作〈読者論壇〉（「新潮」第13巻第

2号、明43・8・1）

国木田独歩 篋底より（「早稲田文学」〔第2次〕第57

号、明43・8・1）↓『国木田独歩全集』第9巻、

学習研究社、昭41・10

—— 『漢学大意』山路愛山著〈新刊紹介〉（「文

章世界」第5巻第11号、明43・8・15）

松永晩果 妄言録〈読者論壇〉（「新潮」第13巻第3号、

明43・9・1）

竹越与三郎 山路愛山君（「中央公論」第25年第9号、

明43・9・1）（山路愛山論〈人物評論（九）〉↓

『山路愛山集』〈明治文学全集35〉筑摩書房、昭40・

10。復刻版『独立評論6』付録、みすず書房、昭

63・2

内田魯庵 山路愛山氏（同右）↓『山路愛山集』〈明

治文学全集35〉筑摩書房、昭40・10。『内田魯庵全

集』第4巻、ゆまに書房、昭60・11。復刻版『独立

評論6』付録、みすず書房、昭63・2

□□氏 山路愛山君（同右）

上司小剣 子煩惱の人（同右）↓復刻版『独立評論6』

付録、みずず書房、昭63・2

木下尚江 山路愛山君(同右) ↓ 『山路愛山集』(明

治文学全集35) 筑摩書房、昭40・10。復刻版『独立

評論6』付録、みずず書房、昭63・2

鉄拳禪 山路愛山論(同右)

斯波貞吉 山路君(同右) ↓ 『山路愛山集』(明治文

学全集35) 筑摩書房、昭40・10

田川大吉郎 山路愛山論(同右) ↓ 『山路愛山集』

(明治文学全集35) 筑摩書房、昭40・10。復刻版

『独立評論6』付録、みずず書房、昭63・2

一記者 『後書』(同右)

『漢文大意』山路愛山著(新刊批評)(同右)

潮風生 『西郷隆盛』上巻 山路愛山著(新刊紹介)

(「雄弁」第1巻第8号、明43・9・1)

『武家時代史論』山路愛山著(新刊書籍と

雑誌)(「読売新聞」明43・10・11)

『武家時代史論』(新刊紹介)(「太陽」第

16巻第14号、明43・11・1)

明治学界奇談(二十八)(「読売新聞」明43

・12・7)「下駄穿違の天才」(山路愛山氏の下駄履

き違ひは 有名なる話なり……)を含む

11*北村美那子 透谷の晩年と其言行(「学生文芸」第2巻

第3、4号、明44・3・1、4・1) ↓ 勝本清一郎

編『透谷全集』第3巻附録、岩波書店、昭30・9

生田蝶介 国民雑誌(二月の雑誌)(「文章世界」第6

巻第4号、明44・3・1)

巖谷小波 卓上演説に就いて(「雄弁」第2巻第3号、

明44・3・1)

山路愛山の隠し芸(「文壇昔ばなし」)(「文章

世界」第6巻第6号、明44・4・15、増刊杜鵑号)

両頭蛇 当代時文家の雄(「文章世界」第6巻第8

号、明44・6・1)「山路愛山」を含む

徳田秋江 月刊雑誌と眞の評論家(同右)

栗原古城 学問と智慧の差別 山路愛山(「文章講義録」

第18号、明44・6・15)

『勝海舟』山路愛山著(新刊書籍と雑誌)

- 〔読売新聞〕明44・6・22)
- 海老名一雄 先生薬罐の禿頭(寄書)〔国民雑誌〕第2巻第7号、明44・7・1)
- ノートブック〔雄弁〕第2巻第7号、明44・7・1) 〔国民雑誌〕評
- 『基督教評論』山路愛山著(新刊書籍と雑誌)〔読売新聞〕明44・7・26)
- 『佐久間象山』山路愛山著(新刊書籍と雑誌)〔読売新聞〕明44・9・4)
- 山路愛山(政論家の新選手)〔文章世界〕第6巻第14号、明44・10・15、鴻雁号)
- 田山花袋 模擬者(卓上語) / 山路愛山(諸家文章短評)〔花袋文話〕博文館、明44・12・28)
- 『書齋独語』山路愛山著(新刊書籍と雑誌)〔読売新聞〕明44・12・30)
- 利彦 唯物的歴史観(『国民雑誌』第1巻第2号、明45・1・15) ↓ 『売文集』丙午出版社、明45・5
- 堺 利彦 唯物的歴史観研究(愛山兄の批評に答ふ)
- 〔国民雑誌〕第3巻第4号、明45・2・15) ↓ 『売文集』丙午出版社、明45・5
- 山路愛山(現代文士録)〔文章世界〕第7巻第3号、明45・2・15、増刊(読書作文の新味)〔訳文大日本史』山路愛山訳、西田敬止校(新刊紹介)〔読売新聞〕明45・5・18)
- 【大正期】
- A生 新著三種を読む〔読売新聞〕大1・10・2)
- 伊達騒動記』を含む
- 戸山銃声 学海の舵手(『人物評論奇人正人』活人社、大1・10・12)
- 健堂 日曜記〔読売新聞〕大1・10・13) 『訳文大日本史』評を含む
- 『加賀騒動記』山路愛山著(新刊書籍と雑誌)〔読売新聞〕大1・11・9)
- 『加賀騒動記』山路愛山著(玉石同架)〔日本及日本人』第594号、大1・11・15)
- 『訳文大日本史』山路愛山訳、西田敬止校

〔新刊書籍と雑誌〕〔読売新聞〕大1・11・24)

—— 『加賀騒動記』山路愛山氏著〔新著紹介〕

〔新小説〕第17年第12巻、大1・12・1)

¹³—— 山路愛山氏〔文界消息〕〔文章世界〕第8

巻第2号、大2・2・1)

惜陰生 愛山氏足下〔寄書〕〔独立評論〕再興第3

号、大2・4・1)

杵島山 日常の山路愛山氏〔文章世界〕第8巻第

5号、大2・4・1)

沼波瓊音 抒情詩としての俳句の力〔此一筋〕〔大正

文庫第2編〕丙午出版社、大2・4・11) 和歌と俳

句の比較論〔国民之友〕評

友山三浪 庭園解放論〔独立評論〕再興第4号、大

2・5・1)〔ひとり言〕〔国民新聞〕評

管国観 新聞及新聞記者(四)〔日本及日本人〕第

606号、大2・5・15)

—— 『書齋独語 其二』山路愛山著〔書籍と雑

誌〕〔読売新聞〕大2・5・15)

—— 訳読会予告〔独立評論〕再興第7号、大

2・8・1)

—— 『為朝論』山路愛山著〔書籍と雑誌〕〔読

売新聞〕大2・8・23)

BN生 山路愛山氏〔訪問記〕〔新潮〕第19巻第3

号、大2・9・1)

—— 『清河八郎遺著』山路愛山編輯〔書籍と雑

誌〕〔読売新聞〕大2・9・15)

—— 『愛山史論』山路愛山著〔書籍と雑誌〕〔読

売新聞〕大2・11・30)

¹⁴—— 『愛山史論』山路愛山著〔新刊批評〕〔中

央公論〕第29年第1号、大3・1・1)

—— 『カーライル会談』〔独立評論〕再興第2巻

第1号、大3・1・1)

—— 堺利彦 蘇峰君の述懐を評す〔思潮〕〔独立評論〕

再興第2巻第2号、大3・2・1)

—— 『岩崎弥太郎』山路愛山著〔出版界〕〔東

京朝日新聞〕大3・2・22)

- 相沢誠一 愛山先生に与ふ〔寄書〕〔独立評論〕〔再興〕第2巻第3号、大3・3・1)
- 『岩崎弥太郎』山路愛山著〔書籍と雑誌〕〔読売新聞〕大3・3・10)
- 山路愛山氏の家庭〔新潮〕第20巻第4号、大3・4・1)〔ゲラビア〕
- 『偉人論』山路愛山著〔新刊批評〕〔読売新聞〕大3・5・24)
- 『思ふがまゝに』山路愛山著〔出版界〕〔東京朝日新聞〕大3・5・31)
- 相沢誠一 水田八郎君に答ふ〔寄書〕〔独立評論〕〔再興〕第2巻第6号、大3・6・1)
- 関 謙三 「偉人論」について 山路愛山先生に質す〔寄書〕(同右)
- 鳥居龍蔵 鳥居龍蔵氏来簡〔独立評論〕〔再興〕第2巻第7号、大3・7・1)〔山路愛山君……〕
- 土居暁風 八丈島に残れる為朝の伝説(同右)「為朝論」〔独立評論〕評
- 『現代富豪論』山路愛山著〔出版界〕〔東京朝日新聞〕大3・8・19)
- 後藤耕民 愛山先生の『素人教育論』を讀みての感想〔独立評論〕〔再興〕第2巻第9号、大3・9・1)
- 伊東圭一郎 史論家山路愛山氏〔東海三州の人物〕静岡民友新聞社、大3・9・5)
- 『現代富豪論』山路愛山著〔新刊紹介〕〔読売新聞〕大3・9・24)
- 足下未見の友 「愛山君足下。……」〔投書〕〔独立評論〕〔再興〕第2巻第10号、大3・10・1)
- 15 後藤肅堂 倭寇が説明する支那国民性の一例〔独立評論〕〔再興〕第3巻第1号、大4・1・1)
- 戸松海応 山路愛山先生に訪はれて〔独立評論〕〔再興〕第3巻第4号、大4・4・1)
- 『柳田国男』 山路愛山氏の見る田舎〔雑報及批評〕〔郷土研究〕第3巻第3号、大4・5・1)
- ↓ 『定本柳田国男集』第30巻、筑摩書房、昭45・11
- SSS 山路愛山君の家康論の一糾繆〔日本及日

本人」第65号、大4・5・15) ↓「独立評論」〔再興〕第3巻第6号、大4・6

後藤肅堂 家康論に就て(日本及日本人に於ける家康

論の糾纏と愛山先生家康伝の序文) 〔「独立評論」

〔再興〕第3巻第7号、大4・7・1)

愛山氏病む 電燈の傘で負傷したのが因で

丹毒に罹る〔「読売新聞」大4・7・13〕〔新聞記事〕

¹⁶無名氏 新聞及び新聞記者〔「日本及日本人」第671

号、大5・1・1)

大町芳衛 腹のせまき山路愛山〔「十人十色 名物男」

実業之日本社、大5・3・23)

〔「東西六千年」山路愛山著〔新刊紹介〕〔読

売新聞〕大5・4・5)

〔「東西六千年」山路愛山著〔出版界〕〔東

京朝日新聞〕大5・4・13)

〔「山路愛山講演集」山路愛山著〔新刊紹介〕

〔「雄弁」第7巻第10号、大5・9・1)

第一編に関する新聞雑誌の批評一斑〔「山路

愛山講演集』第二編(大江書房、大5・10・5)

「時事新報」「国民新聞」「都新聞」「世界新聞」「雄

弁」「大阪毎日新聞」「大阪朝報」「北海タイムス」

「野州新聞」「静岡新聞」「新潟新聞」「広島中国新聞」

「山陽新聞」「京城日報」による批評の転載。第三編

にも再録

〔「山路愛山講演集」山路愛山著〔新刊紹介〕

〔「雄弁」第7巻第13号、大5・11・1)

〔「山路愛山講演集第二編」山路愛山著〔新

刊紹介〕〔「読売新聞」大5・11・2)

〔「支那論」山路愛山著〔新刊紹介〕〔「読売

新聞」大5・12・6)

¹⁷山路愛山氏 腸の疾患の為 昨夜終に逝去

〔「東京朝日新聞」大6・3・16〕〔新聞記事〕

山路愛山氏逝く―昨夜、午後十時に―腸

と腎臓とを病み〔「東京日日新聞」大6・3・16)

〔新聞記事〕

江原素六 天才的文章家 近く大著述を為すはずなり

しに(同右)

—— 山路愛山氏逝く 史実に造詣深し(「読売新聞」大6・3・16)〈新聞記事〉

—— 山路愛山 病みて逝く 多感多涙の大史論家(「国民新聞」大6・3・17)〈新聞記事〉

—— 死……面白い事だ 斯く語りつ、静かに眠る末期の愛山氏(同右)〈新聞記事〉

貞義 —— 山路愛山大人 朝な夕な机に向ひたし、し君をわかれて筆もなくらむ(「国民新聞」大6・3・18)

—— 菖水沢汎玄 山路愛山輓詩二首(漢詩)(「国民新聞」大6・3・20)

蘇峰生 —— 愛山山路弥吉君(同右) ↓ 『人さまさま』民友社、昭6・6。『山路愛山集』(明治文学全集35)筑摩書房、昭40・10

—— 一代の史論家 愛山氏葬儀 雨の青山学院に会葬者七百余名(同右)〈新聞記事〉

別所梅之助 先輩山路愛山君をおもふ(「護教」第1

337号、大6・3・23)

—— 徳富猪一郎 愛山、山路弥吉君(同右) ↓ 内山省三編『愛山文集』民友社、大6・11

—— 宮地生 山路愛山先生(二)(同右) 故山路愛山氏の葬儀(同右)

—— 宮地生 山路愛山先生(二) (「護教」第1338号、大6・3・30)

—— 『石橋湛山』 文豪山路愛山死す／愛山と漱石／愛山と漱石(小評論)(「東洋経済新報」第773号、大6・3・25) ↓ 『石橋湛山全集』第3巻、東洋経

済新報社、昭46・4
—— 山路弥吉氏(「福音新報」第1135号、大6・3・29)

—— 山路愛山(現代文士録)(「文章世界」第12巻第4号、大6・4・1)

—— 山路愛山氏逝く(「文界消息」(同右) 出版者 『世界の過去現在未来』を出版するに就いて(「世界の過去現在未来」大江書房、大6・4・28)

大江保吉 「跋文」(同右)

—— 第二編に関する新聞雑誌の批評一斑(同右)

渡瀬常吉 山路愛山子を憶ふ(「新人」第18巻第5号、

「報知新聞」「東京毎日新聞」「国民新聞」「中央新聞」

大6・5・1)

「大阪毎日新聞」「横浜貿易新聞」「河北新報」「下野

笹川臨風 噫山路愛山君(「人文」第2巻第5号、大

日日新聞」「新潟毎日新聞」「中国民報」「日本及日

6・5・1)

本人」による批評の転載

穂洲生 山路愛山を憶ふ(「武俠世界」第6巻第6

—— 山路愛山先生著「世界の過去現在未来」新

号、大6・5・1)

聞の批評一斑(同右)「東京朝日新聞」「国民新聞」

茶ばなし(「雄弁」第8巻第6号、大6・

「都新聞」「中央新聞」「中国民報」「朝鮮新聞」「大

5・1)(「死んだ山路愛山は天ぶらの好きな人であ

阪毎日新聞」「大阪朝報」「横浜貿易新聞」「浜松新

る。……)(119頁)

聞」「弘前新聞」「山形日報」「北国新聞」「高岡新報」

吉田興山 徳富蘇峰縦横観(同右)「蘇峰と同人」を

「三重新聞」「河北新報」「秋田魁新聞」「下野日日新

含む

聞」「北陸タイムス」「静岡新報」「徳島日日新聞」

—— 「世界の過去現在及将来」故山路愛山著

「参陽新報」「新愛知」「高知新聞」「岐阜日日新聞」

〈新刊紹介〉(「新人」第18巻第6号、大6・6・1)

「和歌山新聞」による批評の転載

—— 「世界の過去現在未来」山路愛山著(「新刊

蘇峰学人 「序」(徳富蘇峰監修、内山省三編「愛山

紹介」(「雄弁」第8巻第7号、大6・6・1)

文集」民友社、大6・11・20) ↓ 「山路愛山集」

大江保吉 山路愛山講演集第三編の後に記す(「山路

「明治文学全集35」筑摩書房、昭40・10

愛山講演集」第三編、大江書房、大6・6・3)

—— 山路愛山著述要目(同右)

- ¹⁸内藤民治 「世界各国弱点究明」の巻頭に題す「諸国民社会」の新提唱（「中外」第2巻第1号、大7・1・1）
- 有藻亜子 亡夫に感謝する未亡人―山路種子夫人―
（「女の世界」第4巻第2号、大7・2・1）
- ¹⁹馬場狐蝶 掘端の小楼にて（「開拓者」第14巻第7号、大8・7・1）
- 高梨光司 山路愛山（「読書の興味」高梨光司、大8・7・31）
- ²⁰高須梅溪 文芸の東京（七）（「文章世界」第15巻第12号、大9・12・1）新聞街の挿話／文士と新聞紙の關係（ほか）
- ²¹高須梅溪 徳富蘇峯を中心とした民友社（『近代文芸史論』上巻、日本評論社出版部、大10・5・25）↓
『明治文学史論』日本評論社、昭9・10
清原貞雄 社会主義（『明治時代思想史』大鏡閣、大10・10・25）
- ²²*近江秋江 三又氏と蘇峯山人（『東京朝日新聞』大
- 12・6・24、26、28）
- ²⁴—— 山路愛山（静岡県編『静岡県人物志』静岡県、大13・1・26）昭49・2に臨川書店から復刻版
- 高須芳次郎 評論界に於ける新人の群／宗教界と文芸界に於ける評論（『日本現代文学十二講』新潮社、大13・1・28）↓『明治大正昭和文学講話』新潮社、昭8・9
- 甲二郎 芸苑遺聞（1）（『書物往来』第3冊、大13・8・20）「漱石と愛山」を含む
- ²⁵小島徳弥 評論界に於ける二派の対立（『明治大正新文学史観』教文社、大14・6・5）「徳富蘇峯と民友社の人々」を含む
- 生方敏郎 猿面記者滝田君（『中央公論』第40年第13号、大14・12・1）
- 鳥谷部陽太郎 山路愛山（『大正畸人伝』三土社、大14・12・5）平7・7に大空社（『列伝叢書29』から復刻版
- ²⁶高須芳次郎 文芸評論界の新人群起（『早稲田文学』

第243号、大15・4・1)

松本龍之助 山路愛山(『明治大正 文学美術人名辞書』

(立川書店、大15・4・5) 昭55・5に国書刊行会

から復刻版

〔昭和期〕

27高須芳次郎 文壇人物一夕話(『騷人』第2巻第2号、

昭2・2・1)「平民的史家山路愛山氏の事」を含む

佐藤春夫 透谷。樗牛。また今日の我々の文学(『文芸

時評』(『中央公論』第42年第7号、昭2・7・1)

↓「文芸一夕話」改造社、昭3・7。『定本佐藤春

夫全集』第20巻、臨川書店、平11・1

28徳富蘇峰 北村透谷集を読む(『好書品題』(蘇峰叢書

第4冊) 民友社、昭3・4・27) 平5・3にゆまに

書房(『書目シリーズ33』)から復刻版

斎藤昌三 等閑にされた新体詩書(『愛書趣味』第3

巻第6号、昭3・10・10)「信濃国の歴史の歌」の解

題を含む。↓「書痴の散歩」書物展望社、昭7・11

29竹越竹代・山路たね・阿部茂・水野夫人・千本木道

(座談会) 卓をかこんで―明治廿五から卅年頃ま

で―(『婦人新報の沿革』(『婦人新報』第370号、昭

4・1・1)

早坂四郎 『現時の社会問題及び社会主義者』解題

(『明治文化全集』第6巻(社会篇)、日本評論社、

昭4・2・15)「現時の社会問題及び社会主義者」

を収録

30徳富蘇峰 結城桂陵君の近著を読む(『生活と書籍』

民友社、昭5・1・1) 平5・3にゆまに書房(『書

目シリーズ33』)から復刻版

31木村 毅 社会小説研究(佐藤義亮編『日本文学講座』

第11巻(『明治時代上編』、新潮社、昭6・5・5)

「民友社の主張」を含む

―― 山路愛山(『諸家略年譜』(山本三生編『新

聞文学集』(『現代日本文学全集第51編』)改造社、昭

6・5・20)「平政子論」を収録

塩田良平 浪漫主義と国民之友―浪漫主義私見三一

(『国文学誌』第1巻第4号、昭6・8・1)

32 山路愛山（明治文壇人名録）（月刊日本文

学」第2巻第4号、昭7・3・1）

老猿 山路愛山氏の事ども（「信濃」第1巻第7

号、昭7・7・15）

比屋根安定 近世日本文学における基督教（「新興基

督教」第23号、昭7・8・1）

久木東海男 人物評論家／蘇峰の書、詩、文（『新聞

先覚評論』立命館出版部、昭7・9・20）

—— 新聞記者は猿芝居の猿（「公私月報」第26

号、昭7・11・5）「二日一題」（「独立評論」第2

巻第6号）を取り上げる

33 斎藤昌三 明治の社会評論雑誌（日本雑誌興亡史考

その6）（「書物展望」第3巻第2号、昭8・2・1）

「国民雑誌」を含む。↓「閑板 書国巡礼記」書物展

望社、昭8・12。平10・8に平凡社（『東洋文庫639』版

斎藤 潔 日本基督教近代詩歌史（三）（「新興基督教」

第29号、昭8・2・1）「国民之友」と「女学雑誌」

を取り上げる

高須芳次郎 北村透谷の人生批評と大西操山の文明批

評（『明治大正昭和文学講話』新潮社、昭8・9・28）

桜井 匡 日本メソヂスト教会（『教派別 日本基督教

史』隆章閣、昭8・12・28）

34 徳富蘇峰 民友社と「国民之友」（山本三生ほか編

『日本文学講座』第11巻（『明治文学篇』、改造社、昭

9・1・17）

土方定一 明治の文芸評論（山本三生ほか編『日本文

学講座』第12巻（『明治大正篇』、改造社、昭9・

4・8）↓『近代日本文学評論史』西東書林、昭

11・6。昭23・9に昭森社（『思潮文庫3』版。昭

48・11に法政大学出版社版

白柳秀湖 明治の史論家（同右）↓『歴史と人間』千

倉書房、昭11・3。『明治史論集（一）』（『明治文学

全集77』筑摩書房、昭40・9

徳富蘇峰、塩田良平記 明治文学余韻——蘇峰氏との一

問一答録——（『明治大正文学を語る』（『国語と国文学』

第11巻第8号、昭9・8・1）

松井豊吉編 『日本メソヂスト静岡教会六拾年史』

(日本メソヂスト静岡教会、昭9・9・27)

第一編教会編 第三章前記 明治十七年より二十六年

まで／第九章第五期前記 大正三年より同十一年ま

で

白柳秀湖 福沢諭吉と荻生徂徠―慶応義塾と紀州藩と

の関係―〔伝記〕第1巻第2号、昭9・11・1)

³⁵―― 山路愛山 (日本文学資料研究会編『国学者

伝記集成』続篇、国本出版社、昭10・1・5) 昭

47・5に名著刊行会から復刻版

塩田良平 国民之友と徳富蘇峰 (近代日本文学論』

万上閣、昭10・5・5)

服部之総 史家としての蘇峰、三又、愛山―民友社史

学論―〔唯物論研究〕第32号、昭10・6・1) ↓

『歴史随筆集 MOODS CASHEY』真善美社、昭22

・11。『服之総著作集』第6巻、理論社、昭30・8

比屋根安定 メソヂスト諸派の先達―美以、福音、美

普―メソヂスト系統の発達―三派合同、本多庸一

―〔日本近世基督教人物史』基督教思想叢書刊行
会、昭10・10・25)

比屋根安定 山路愛山先生のこと(『五餅二魚 随筆集』

日曜世界社、昭10・12・20)

³⁶久保田米所 父及び子の交際せし明治の文芸家―思

軒・篁村・魯庵・紅葉等―〔伝記〕第3巻第7号、

昭11・7・1)

久松潜一 浪漫主義の文学論 (『日本文学評論史 近

世・最近世篇』至文堂、昭11・10・29) 「国民の友

に於ける蘇峰と愛山の文学論」を含む

³⁷高須芳次郎 山路愛山 (藤村作編『日本文学大辞典』

第6巻、新潮社、昭12・1・15) 昭26・8に増補改

訂版

―― 山路愛山 (大日本人名辞書刊行会編『大日

本人名辞書』増訂十一版、大日本人名辞書刊行会、

昭12・3・12) 昭49・8に講談社から復刻版

³⁸徳富蘇峰 鼎軒・愛山と白柳君―白柳君と僕 (白柳秀

湖著『定版 民族日本歴史 建国編』千倉書房、昭13

・ 2 ・ 8)

山路平四郎 山路愛山「懐旧録」より〔明治文学〕

第5号、昭13・7・20)

鎌田 敬 山路愛山(平凡社編)『新撰大人名辞典』第

6巻、平凡社、昭13・10・31) 昭54・7に復刻版

(『日本人名大事典』)

⁴⁰別所梅之助 「基督教の日本の展開」〔朝のおもひ〕

創元社、昭15・1・30)

比屋根安定 基督教と明治文学との交渉 (『日本基督

教史』第5巻(発展篇)、教文館、昭15・3・16)

「基督教的傾向の諸雑誌」を含む

大久保利謙 明治初年の史学界と近代歴史学の成立

(『日本近代史学史』(日本歴史文庫) 白揚社、昭

15・10・16) ↓『明治史論集(二)』(『明治文学全集

77) 筑摩書房、昭40・9

⁴¹池田次郎吉 「明治初期の静岡」(自筆本、昭16・5)

静岡県立中央図書館蔵

⁴²藤原喜代蔵 教育と宗教に関する論争(『明治・大正

・ 昭和 教育思想学説人物史』第1巻(明治前期篇)、

東亜政経社、昭17・11・20) 「基督教徒及び新聞雑

誌群起して井上を攻む」を含む

⁴³大久保利謙 同志社大学の愛山文庫を訪ふ(『明治文

化』第16巻第5号、昭18・5・11) ↓『幕派論議』

吉川弘文館、昭61・5

付・山路愛山参考文献目録

—— 昭和二十一年〜平成十四年 —— 補遺

村沢武夫 基督教の影響／影響余話(『郷土のキリス

ト教』飯田郷土史刊行会、昭36・7)

—— 山路愛山(村沢武夫編)『信濃人物誌』信濃

人物誌刊行会事務所、昭37・1)

—— 明治後期の学芸(『静岡市史 近代』静岡市、

昭44・4)

神田 茂・大崎正次 解題(大崎正次編)『天文方関係

史料』(神田茂先生喜寿記念) 大崎正次、昭46・7)

「山路家(天文方代々記)」を収録

—— 山路愛山（信州人物誌刊行会編『信州人物誌』信州人物誌刊行会、昭48・3）

—— 山路愛山とその時代（信濃毎日新聞「百年の歩み」編集委員会編『百年の歩み—信濃毎日新聞』信濃毎日新聞、昭48・7）

坂本令太郎 山路愛山—自ら「平民史家」を称す（『近代を築いたひとびと』5、信濃路、昭53・4）
広瀬秀雄 天文方の生活—「久間孝子覚書」（『太陽・月・星と日本人』〈カルチャーブックス32〉雄山閣出版、昭54・3）

—— 山路愛山〈近代に活躍した人々〉（宝月圭吾ほか編『長野県風土記』旺文社、昭61・6）

—— 県内の出版活動（長野県編『長野県史通史編』第7巻〈近代1〉、長野県史刊行会、昭63・3）第7章「日清・日露戦争と戦間期の長野県」、第6節「県民の文化活動」のうち

平岡敏夫 明治文学史／頼襄を論ず（三好行雄ほか編

『日本現代文学大事典 作品篇』明治書院、平6・10）

—— 学芸・報道と宗教（長野市誌編さん委員会

編『長野市誌』第5巻〈歴史編 近代1〉、長野市、平9・10）第4章「長野市制の施行と日露戦争」、第6節「学校教育の普及と文化活動の進展」のうち
佐藤明達 人物こぼればなし（2）（『天界』第90号、平12・5）「山路愛山」を含む

GRAHAM SQUIRES Yamaji Aizan's Traces of the Development of Human Rights in Japanese History (『MONUMENTA NIPPONICA』Vol. 56, No. 2, 平13・〔6〕)

—— 山路愛山（講談社出版研究所編『講談社日本人名大辞典』講談社、平13・12）

小山文雄 江の島に遊ぶ人々（『統個性きらめく—藤沢近代の文士たち—』藤沢市教育委員会、平14・3）
「鎌倉及江の島」—山路愛山」を含む

イ・ヨンスク 「狭義の日本人」と「広義の日本人」—山路愛山『日本人民史』をめぐる—（赤坂憲雄ほか編『日本を問いなおす』〈いくつもの日本I〉

岩波書店、平14・10)

木股知史 北村透谷と山路愛山 人生相渉論争(上田博・瀧本和成編『明治文芸館』Ⅱ(国会開設期の文学浪漫主義の幕開け)、嵯峨野書院、平14・10)「頼裏を論ず(抄)」 「凡神的唯心的傾向に就て」 「唯心的、汎神的傾向に就て」を収録

前号の訂正

佐藤善也 透谷の批評と文学観―その文芸批評の基準について―(『国文学』第9巻第7号、昭39・6)

〔331頁〕を削除

*平岡敏夫 山路愛山『明治文学史』(『文学』第34巻第

2、4号、昭41・2、4) ↓『北村透谷研究』有精

堂出版、昭42・6〔332頁〕は、↓以下を削除

付記

前回は、「単行本」と「新聞・雑誌・単行本等所収論文」に分けたが、今回は、後者のみを発行年月日順に掲

げた。これまで、発行年月までを記入していたが、今回は、年月日まで記入することにした。また、排列についても、同月内は、著者名の五十音順としていたが、発行年月日順とし、年月日が同じ場合は、誌名・書名の五十音順とした。現物の確認は、前回の戦後編に比べ、かなり手間取ったが、年月日まで記入することにしたのは、現物確認の証拠を示す意味も含めた。調査不足のため、遺漏した文献も多いと思われるが、御寛恕いただきたい。本目録の作成にあたっては、次の先行参考文献目録を参考にさせていただいた。

- ・ 師井キヌエ 山路愛山資料年表(昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第16巻、昭和女子大学光葉会、昭36・2)
- ・ 大久保利謙 参考文献(大久保利謙編『山路愛山』(『明治文学全集35』筑摩書房、昭40・10)
- ・ 岡 利郎 参考文献(岡利郎編『山路愛山集(二)』(『民友社思想文学叢書第3巻』三一書房、昭60・2)
- ・ 石上良平・石上瀨子 参考文献について(山路愛山著、

石上良平・石上瀬子編『人生・命耶罪耶』影書房、
昭60・3)

山路愛山の著作目録については、川崎司「山路愛山著作目録」〔聖学院大学論叢〕第15巻第2号、平15・3)を参照いただきたい。これは川崎氏の長年にわたる調査、研究の成果で、愛山の膨大な著作の全貌に迫るものである。今回も前回と同様、多くのご教示をいただいた川崎司氏に感謝の意を表したい。